

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎1	指導担当者名	石井陽寿	
実務経験	-		実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: ー
単位数	4 単位	総時間	120 時間	週時間数 2 時間
学習到達目標	日本の企業文化への理解を深めるとともに、ビジネスの場面で求められる日本語表現やビジネスマナー、しきたりなど幅広い知識を身につける。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	これ一冊で仕事の全てがわかる！日本で働くための本			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	第1章 Unit1 仕事の心得	学生と社会人の違いや、社会人として仕事をする上で重要なことについて学び、社会人として望ましい行動がとれるような知識を身につける。	
	2	第1章 Unit2 仕事での態度	仕事での話し方や聞き方、依頼・謝罪の方法について学ぶ。	
	3	第1章 Unit3 仕事の進め方	仕事を進める上で重要な報告・連絡・相談や優先順位のつけ方、個人情報を含む情報管理について学ぶ。	
	4	第1章 Unit4 人間関係	会社での上下関係や、敬語の使い方、上司や同僚との付き合い方、ハラスメントなど、仕事上での人間関係について学ぶ。	
	5	第1章 まとめ(事例から考える1～4)	それぞれの事例についてディスカッションを行った後、確認問題に取り組む	
	6	第2章 Unit1 第一印象の大切さ	第一印象の大切さについて、身だしなみ・あいさつ・おじぎの観点から学ぶ。	
	7	第2章 Unit2 立ち居ふるまい	社会人としての立ち居ふるまいとして、姿勢や物の受け渡し方、ドアの開け閉めの方法について学ぶ。	
	8	第2章 Unit3 名刺交換	名刺交換の方法について学び、実践する。	
	9	第2章 Unit4 来客対応	来客対応の基本として、席次や案内の仕方、お茶の出し方について学ぶ。	
	10	第2章 Unit5 企業訪問	企業訪問や社外での打ち合わせの方法について学ぶ。	
	11	第2章 まとめ	確認クイズを行い、これまでの内容について振り返りを行う。	
	12	第3章 Unit1 ビジネスメール	ビジネスメールの書き方やメールでよく使う表現について学び、ビジネスメールが書けるようになる。	
	13	第3章 Unit2 ビジネス文書	ビジネス文書の基本を学び、社内・社外文書が書けるようになる。	
	14	第3章 Unit3 電話対応	電話対応の基本を学び、電話を受けたりかけたりできるようになる。	
	15	第3章 Unit4 会議	会議の基本やプレゼンテーションの基本について学ぶ。	
	16	第3章 まとめ	確認クイズを行い、これまでの内容について振り返りを行う。	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎1		指導担当者名	石井陽寿	
実務経験	-			実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年		
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: ー	
単位数	4 単位	総時間	120 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	日本の企業文化への理解を深めるとともに、ビジネスの場面で求められる日本語表現やビジネスマナー、しきたりなど幅広い知識を身につける。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	これ一冊で仕事の全てがわかる！日本で働くための本				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	第4章 Unit1 異文化理解	察しの文化やパーソナルスペースなど、ビジネスに係る異文化コミュニケーションについて学ぶ。また、企業によって異なる文化について学ぶ。		
	18	第4章 Unit2 日本のしきたり	日本の冠婚葬祭やお中元、お歳暮、贈り物について学ぶ。		
	19	第4章 Unit3 食事のマナー	日本の食事のマナー、お酒のマナーについて学ぶ。		
	20	第4章 Unit4 個人宅訪問	個人宅を訪問するさいに気を付けなければならないことなどについて学ぶ。		
	21	第4章 まとめ	確認クイズを行い、これまでの内容について振り返りを行う。		
	22	第5章 Unit1 自己分析①	自分の過去・現在・将来について時系列で書き出す。また、書き出した一つ一つを深掘していく。		
	23	第5章 Unit1 自己分析②	自己分析①で書き出したことを整理し、現在の自分と向き合う。また、将来について具体的に考える。		
	24	第5章 Unit2 企業研究①	業界研究、職種研究、企業研究の目的とその方法について学ぶ。		
	25	第5章 Unit2 企業研究②	実際に自分の目指す業界・職種・企業について調べ、まとめる。		
	26	第5章 Unit3 応募から内定まで(就職活動)	日本での就職活動の流れを学ぶ。		
	27	第5章 Unit3 応募から内定まで(応募書類)	応募書類の種類や書き方について学ぶ。		
	28	履歴書の作成①	自身の履歴書を作成する。		
	29	履歴書の作成②	自身の履歴書を作成する。		
	30	第5章 Unit3 応募から内定まで(面接)	面接試験の種類や流れ、方法について学ぶ。		
	31	面接練習①	面接 練習を行う。		
32	面接練習②	面接 練習を行う。			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識A (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・1章 読み物1	講義、練習問題
	2	1章 読み物2	講義、練習問題
	3	2章 読み物1・2	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識A (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・1章 読み物1	講義、練習問題
	2	1章 話す・聴解	講義、練習問題、会話練習
	3	2章 読み物2	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識A (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・自己紹介文作成	講義
	2	1章 読み物2	講義、練習問題
	3	1章 文法	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識B (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	2章 書く・聴解	講義、練習問題
	18	3章 ディスカッション	講義、練習問題
	19	3章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	20	4章 ワークブック・文法解説	講義、練習問題
	21	5章 読み物1	講義、練習問題
	22	5章 ワークブック・文法解説	講義、練習問題
	23	6章 読み物2	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識B (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 読み物1	講義、練習問題
	18	3章 話す・ディスカッション	講義、練習問題
	19	4章 読み物1	講義、練習問題
	20	4章 話す・ディスカッション	講義、練習問題
	21	5章 読み物1	講義、練習問題
	22	5章 話す・ディスカッション	講義、練習問題
	23	6章 読み物1	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
	31	期末試験解説	講義、練習問題
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語知識B (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	2章 読み物1	講義、練習問題
	18	2章 ワークブック	講義、練習問題
	19	3章 読み物1	講義、練習問題
	20	3章 ワークブック	講義、練習問題
	21	3章 聴解・文型確認	講義、練習問題
	22	4章 読み物1	講義、練習問題
	23	4章 ワークブック	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現A (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 読み物2・ワークブック	講義、練習問題
	2	1章 聴解・ワークブック	講義、練習問題
	3	2章 ディスカッション	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現A (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 読み物1・2	講義、練習問題
	2	1章 ワークブック・読み物1	講義、練習問題
	3	2章 ワークブック	講義、練習問題、口頭練習
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現A (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 読み物1	講義、練習問題
	2	1章 作文	講義、練習問題
	3	1章 聴解・ワークブック	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現B (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 読み物1	講義、練習問題
	18	3章 ワークブック	講義、練習問題
	19	4章 読み物1	講義、練習問題
	20	4章 作文	講義、練習問題
	21	5章 読み物2	講義、練習問題
	22	5章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	23	6章 作文	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
	31	期末試験解説	講義、練習問題
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現B (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 読み物2	講義、練習問題
	18	3章 作文	講義、練習問題
	19	4章 読み物2	講義、練習問題
	20	4章 作文	講義、練習問題
	21	5章 読み物2	講義、練習問題
	22	5章 作文	講義、練習問題
	23	6章 読み物2	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語表現B (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	2章 読み物2	講義、練習問題
	18	2章話す	講義、練習問題
	19	3章 読み物2	講義、練習問題
	20	3章 話す・ワークブック	講義、練習問題
	21	3章 まとめ	講義、練習問題
	22	4章 読み物2	講義、練習問題
	23	4章 作文	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語A (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 ディスカッション	講義、練習問題
	2	1章 聴解・ワークブック	講義、練習問題
	3	2章 作文	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語A (N2)	指導担当名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 作文	講義、練習問題
	2	1章 読み物1・2	講義、練習問題、口頭練習
	3	2章 作文・聴解	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語A (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1章 読み物1・文法	講義、練習問題
	2	1章 読み物2・会話	講義、練習問題、会話練習
	3	1章 ワークブック	講義、練習問題
	4	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	5	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	6	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	7	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	8	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	9	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	10	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	11	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	12	練習問題①	問題演習
	13	練習問題②	問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義、問題演習
	16	総復習	講義、問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語B (N1)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテットⅡ / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 読み物2	講義、練習問題
	18	3章 書く	講義、練習問題
	19	4章 読み物2	講義、練習問題
	20	4章 話す・聴解	講義、練習問題
	21	5章 ディスカッション	講義、練習問題
	22	6章 読み物1	講義、練習問題
	23	6章 ディスカッション	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語B (N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N2合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	3章 ワークブック	講義、練習問題
	18	3章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	19	4章 ワークブック	講義、練習問題
	20	4章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	21	5章ワークブック	講義、練習問題
	22	5章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	23	6章 ワークブック	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義、練習問題	
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	応用日本語B (N3)	指導担当者名	大坂友子・渡邊祐子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格。読む・書く・話す・聞くの4技能の演習を通して、「日本語の使用」の面での基礎力を向上させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	4技能でひろがる 中級日本語カルテット I / 日本語能力試験ベスト問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	2章 読み物1・2 文型確認	講義、練習問題
	18	2章 作文・聴解	講義、練習問題
	19	2章 まとめ	講義、練習問題
	20	3章 作文	講義、練習問題
	21	3章 まとめ・4章 読み物1	講義、練習問題
	22	4章 話す・文型確認	講義、練習問題
	23	4章 聴解・まとめ	講義、練習問題
	24	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	25	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	26	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	27	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	28	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	29	JLPT対策	文字語彙、文法、読解、聴解 ベスト問題集
	30	期末試験	試験
	31	期末試験解説	講義、練習問題
32	総復習	講義、練習問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策 I (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策 I (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策 I (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策 I (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策 I (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策 I (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策 I (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策 I (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナー I	指導担当者名	鶴巻裕之	
実務経験	-	実務経験:	有	
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	日本で暮らしていくための最低限のマナーを習得していく			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	外国人実務能力検定公式テキスト PATF4級			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	日本人の特徴	実例を参考にしながら理解していく	
	2	日本人の特徴	実例を参考にしながら理解していく	
	3	日本人の特徴	実例を参考にしながら理解していく	
	4	日本人が大切にしていること	実例を参考にしながら理解していく	
	5	日本人が大切にしていること	実例を参考にしながら理解していく	
	6	日本人が大切にしていること	実例を参考にしながら理解していく	
	7	日本の社会	人口、インフラ、治安について	
	8	日本の社会	物価とこれからの日本	
	9	すまい	一戸建て、アパート、マンションの区別など	
	10	すまい	生活するための規則	
	11	食事	マナーなど	
	12	公共マナー	実例を参考に理解していく	
	13	公共マナー	実例を参考に理解していく	
	14	公共マナー	実例を参考に理解していく	
	15	交通ルール	基本ルール	
	16	交通ルール	歩行者と自転車、バイク、自動車	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナー I	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	実例や生徒たちの経験談をもとに理解を深めていく		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	外国人実務能力検定公式テキスト PATF4級		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	トラブルや犯罪	実例を参考に理解していく
	18	トラブルや犯罪	実例を参考に理解していく
	19	トラブルや犯罪	実例を参考に理解していく
	20	心がけ	時間、約束、挨拶、仕事、清潔感、プライベート、健康管理など
	21	心がけ	時間、約束、挨拶、仕事、清潔感、プライベート、健康管理など
	22	心がけ	時間、約束、挨拶、仕事、清潔感、プライベート、健康管理など
	23	身だしなみ	服装、髪型、アクセサリーなど
	24	ビジネスマナー	ロールプレイを通して実感、理解していく
	25	コミュニケーション	ロールプレイを通して実感、理解していく
	26	コミュニケーション	ロールプレイを通して実感、理解していく
	27	コミュニケーション	ロールプレイを通して実感、理解していく
	28	その他注意すべきこと	ハラスメントなど
	29	その他注意すべきこと	日常生活での注意事項
	30	総復習	質疑応答やロールプレイでまとめていく
	31	総復習	質疑応答やロールプレイでまとめていく
32	総復習	質疑応答やロールプレイでまとめていく	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習 I	指導担当者名	小針代里子
実務経験	-		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	パソコンの基礎(タイピング、エクセル)を学び、日本語での文書作成や基礎的なデータ処理ができる		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	留学生のためのかんたんExcel入門		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション/設定	講義、演習
	2	1章 1-1 パソコンの種類と起動 1章 1-2 マウスの操作	講義、演習
	3	1章 1-3 Windowsの画面とアプリケーションの起動	講義、演習
	4	1章 1-4 キーボードの名称と機能 1章 1-5 ローマ字・ひらがな・漢字	講義、演習
	5	1章 1-6 タッチタイピング 1章 1-7 入力モードと日本語IME	講義、演習
	6	1章 1-8 ひらがなの入力と漢字変換 タイピング練習(1)	講義、演習
	7	2章 フォルダーやファイル操作の基本編	講義、演習
	8	タイピング練習(1)	演習
	9	3章 3-1 Excelの基本	講義、演習
	10	3章 3-2 セル操作の基本	講義、演習
	11	3章 3-3 セルの編集	講義、演習
	12	3章 3-4 表の編集①	講義、演習
	13	3章 3-4 表の編集②	講義、演習
	14	期末試験	試験
	15	タイピング練習(2)	演習
	16	3章 3-5 式と計算の基本	講義、演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習 I	指導担当者名	小針代里子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	パソコンの基礎(タイピング、エクセル)を学び、日本語での文書作成や基礎的なデータ処理ができる		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	留学生のためのかんたんExcel入門		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	17	3章 3-6 相対参照・絶対参照①	講義、演習
	18	3章 3-6 相対参照・絶対参照②	講義、演習
	19	3章 3-7 表の式と計算	講義、演習
	20	3章 3-8 グラフ機能	講義、演習
	21	3章 3-9 棒グラフ	講義、演習
	22	3章 3-10 折れ線グラフ・箱ひげ図	講義、演習
	23	3章 3-11 シート間の参照と画像・図形の挿入	講義、演習
	24	3章 3-12 関数と数式の基本①	講義、演習
	25	3章 3-13 関数と数式の基本②	講義、演習
	26	3章 3-13 条件分岐と論理式①	講義、演習
	27	3章 3-13 条件分岐と論理式②	講義、演習
	28	3章 3-14 データの抽出	講義、演習
	29	3章 3-15 データの並べ替え	講義、演習
	30	期末試験	試験
	31	総復習	演習
32	総復習	演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎Ⅱ	指導担当者名	高橋大祐・石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本でのビジネスについての作法を理解し、実践できる。 ・日本の就職活動文化を理解し実践ができる 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	留学生のための就職内定ワークブック		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	履歴書作成①	歴書記入事項確認
	2	履歴書作成②	履歴書記入①
	3	履歴書作成③	履歴書記入②
	4	履歴書作成④	履歴書添削、修正
	5	自己PR、志望動機①	自分の強み弱みの確認
	6	自己PR、志望動機②	自己PR書き方、まとめ方
	7	自己PR、志望動機③	企業研究の方法と内容確認
	8	自己PR、志望動機④	企業研究から考える志望動機の記載方法
	9	求人票の見方	労働条件に関する日本語の理解
	10	服装マナー	服装に関するマナーの理解
	11	面接の手順とマナー	面接の手順の理解と実践
	12	面接練習①	面接を通し実戦練習
	13	面接練習②	面接を通し実戦練習
	14	面接練習③	面接を通し実戦練習
	15	面接練習④	面接を通し実戦練習
	16	就職活動まとめ	就職活動に必要な知識の復習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎Ⅱ		指導担当者名	高橋大祐・石井陽寿	
実務経験	-			実務経験:	有
開講時期	通期		対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本でのビジネスについての作法を理解し、実践できる。 ・日本の就職活動文化を理解し実践ができる 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	留学生のための就職内定ワークブック				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	内定	内定の手続きについての確認		
	18	在留資格	在留資格の知識と今後の手続きについて		
	19	卒業後も就職活動が続けるために	進路が決まらなかった場合の在留資格の知識		
	20	働き始める前に知っておくべきこと	日本での働き方についての確認		
	21	外国人新入社員のためのビジネスマナー①	新入社員として必要なビジネスマナーの確認		
	22	外国人新入社員のためのビジネスマナー②	新入社員として必要なビジネスマナーの実践		
	23	あいさつのマナー①	あいさつのマナーについての確認		
	24	あいさつのマナー②	あいさつのマナーについての確認		
	25	社内コミュニケーションのマナー①	社内でのコミュニケーションの注意点の確認		
	26	社内コミュニケーションのマナー②	社内でのコミュニケーションの注意点の実践		
	27	席次のマナー①	席次マナーの確認		
	28	席次のマナー②	席次マナーの実践		
	29	名刺交換のマナー①	名刺交換に必要な手順、マナーの確認		
	30	名刺交換のマナー②	名刺交換に必要な手順、マナーの実践		
31	その他ビジネスマナー	その他必要なビジネスマナーについての確認と実践			
32	入社後ビジネスマナーまとめ	日本の会社に入社後に必要な知識の総復習			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策Ⅱ (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策Ⅱ (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
	31	期末試験解説	講義・問題演習
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策Ⅱ (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	日本語能力試験対策Ⅱ (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策Ⅱ (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策Ⅱ (N1・N2)	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N1・N2合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N1・N2 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N1・N2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
31	期末試験解説	講義・問題演習	
32	総復習	講義・問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策Ⅱ (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・日本語の森 文字語彙	講義・問題演習
	2	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	3	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	4	日本語の森 漢字・文法・読解	講義・問題演習
	5	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	6	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	7	JLPT 模擬問題①	日本語の森 模擬試験第一回
	8	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	9	JLPT 模擬問題②	日本語の森 模擬試験第二回
	10	JLPT 模擬問題解説	講義・問題演習
	11	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	12	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	13	日本語の森 文字語彙・聴解	講義・問題演習
	14	期末試験	試験
	15	期末試験解説	講義・問題演習
	16	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	検定対策Ⅱ (N3)	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日本語能力試験N3合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	この一冊で合格する JLPT N3 / 日本語能力試験ベスト総合問題集 N3		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	18	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	19	日本語の森 文字語彙・文法・読解	講義・問題演習
	20	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	21	日本語の森 文字語彙・文法	講義・問題演習
	22	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	23	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	24	日本語の森 文法・読解	講義・問題演習
	25	日本語の森 聴解・文字語彙	講義・問題演習
	26	JLPT 模擬問題①	JLPT 過去問
	27	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	28	JLPT 模擬問題②	JLPT 過去問
	29	JLPT 模擬問題解説	過去問解説
	30	期末試験	試験
	31	期末試験解説	講義・問題演習
32	総復習	講義・問題演習	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	簿記	指導担当者名	佐藤 和
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	10月に受験する全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)に合格する。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集、過去問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	簿記の基礎、全体像の説明	
	2	Chapter1	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	3	Chapter2	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	4	Chapter3	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	5	Chapter4	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	6	Chapter5	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	7	Chapter6	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	8	Chapter7	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	9	Chapter8	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	10	Chapter9	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	11	Chapter10	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	12	Chapter11～12	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集
	13	期末試験	
	14	期末試験 解答・解説	
	15	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	16	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	簿記	指導担当者名	佐藤 和
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	10月に受験する全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)に合格する。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)公式テキスト&問題集、過去問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	17	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	18	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	19	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	20	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	21	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	22	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	23	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	24	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	25	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	26	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	27	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	28	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	29	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	30	過去問題集	全経簿記能力検定試験(基礎簿記会計)過去問題集
	31	期末試験	
32	期末試験 解答・解説		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	マネジメント基礎	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	マネジメントの基本的な考え方を理解する。組織・人・仕事を管理する基礎知識を身につける。報告・連絡・相談やチームワークの重要性を理解する。日本企業の特徴や働き方について理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	講師作成のプリント・資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション・マネジメントとは何か	講義、演習
	2	会社の仕組みと組織の役割	講義、演習
	3	経営者・管理者・社員の役割の違い	講義、演習
	4	日本企業の特徴と働き方	講義、演習
	5	PDCAサイクルの基本	講義、演習
	6	目標設定とスケジュール管理	講義、演習
	7	チームワークとコミュニケーション	講義、演習
	8	報告・連絡・相談	講義、演習
	9	リーダーシップの基礎	講義、演習
	10	モチベーション管理	講義、演習
	11	問題発見と課題解決	講義、演習
	12	クレーム対応とトラブル対応基礎	講義、ロープレ
	13	会議の進め方と役割分担	講義、演習
	14	業務改善の考え方	講義、演習
	15	前期まとめ・試験対策	問題演習
	16	期末試験	試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナーⅡ	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	外国人実務能力検定試験3級の合格を目指すとともに、日本企業の特徴や会社の雇用制度・規則について理解し、日本の会社で働くために必要なビジネスマナーを身につけることを目標とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	外国人実務能力検定公式テキスト PATF3級		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	練習問題1	実技問題1
	2	第1章 日本の会社②	雇用形態、就業規則について 株式会社の仕組みと日本企業の特徴について
	3	第1章 まとめ 第2章 就職活動①	1章確認問題、解答解説 新卒採用について 就職活動の流れ 求人票の見方
	4	第2章 就職活動②	在留資格について 就職活動のマナー
	5	練習問題2	身だしなみ、席次 第2章確認問題
	6	第3章 社会人に求められる意識	職業倫理、社会性・責任感・自主性・思いやり・チームワークについて
	7	第3章 社会人に求められる能力	コミュニケーション力・聴く力・読み取る力・考える力・空気を読む力について
	8	第3章 確認問題 第4章 ビジネスマナー①	3章確認問題、解答解説 敬語の確認 敬語の使い分け
	9	練習問題3	ビジネス電話のポイント、電話の受け方・かけ方のポイント
	10	第4章 ビジネスマナー③	ビジネスシーンでの電話の受け方・かけ方練習
	11	敬語の復習	1章～3章の練習問題
	12	第4章 ビジネスマナー④	来客対応のポイント 受付 茶菓接待
	13	模擬試験1	模擬試験の実施、解説
	14	第4章 ビジネス文書演習	第4章 ビジネス文書演習
	15	第4章 確認問題	解答解説
	16	第1章～4章の総合問題	解答解説
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナーⅡ	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	外国人実務能力検定試験3級の合格を目指すとともに、日本企業の特徴や会社の雇用制度・規則について理解し、日本の会社で働くために必要なビジネスマナーを身につけることを目標とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	外国人実務能力検定公式テキスト PATF3級		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	基本操作復習1	1年次、2年次既習項目を復習、演習
	18	第5章 確認問題 第6章 日常生活の一般常識	解答解説 住まいやゴミ出し 公共のマナー
	19	第6章 日常生活の一般常識 確認問題	食事のマナー、金品の貸し借り 確認問題の解答解説
	20	検定試験対策①	模擬試験 解答解説
	21	検定試験対策②	模擬試験 解答解説
	22	検定試験対策③	模擬試験 解答解説
	23	検定試験対策④	模擬試験 解答解説
	24	検定試験対策⑤	模擬試験 解答解説
	25	いろいろな関数1	模擬試験 解答解説
	26	ビジネスの日本語①	ビジネス電話
	27	ビジネスの日本語②	ビジネスメール
	28	ビジネスの日本語③	受付
	29	VBAプログラム入門1	商談
	30	ビジネスの日本語⑤	謝罪
	31	ビジネスの日本語⑥	依頼
32	期末試験	試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習Ⅱ	指導担当者名	小針代里子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・EXCEL表計算処理技能認定試験3級合格 ・ビジネスで求められるエクセルの基本を理解実践できる 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	練習問題1	実技問題1
	2	練習問題1	実技問題2
	3	練習問題1	実技問題3
	4	練習問題1	実技問題4、5
	5	練習問題2	実技問題1
	6	練習問題2	実技問題2
	7	練習問題2	実技問題3
	8	練習問題2	実技問題4、5
	9	練習問題3	実技問題1
	10	練習問題3	実技問題2
	11	練習問題3	実技問題3
	12	練習問題3	実技問題4、5
	13	模擬試験1	模擬試験の実施、解説
	14	模擬試験2	模擬試験の実施、解説
	15	模擬試験3	模擬試験の実施、解説
	16	期末試験	試験
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習Ⅱ		指導担当者名	小針代里子	
実務経験	-			実務経験:	有
開講時期	通期		対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年	
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	・EXCEL表計算処理技能認定試験3級合格 ・ビジネスで求められるエクセルの基本を理解実践できる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	基本操作復習1	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	18	基本操作復習2	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	19	基本操作復習3	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	20	基本操作復習4	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	21	基本操作復習5	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	22	基本操作復習6	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	23	基本操作復習7	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	24	基本操作復習8	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	25	いろいろな関数1	SUM, AVERAGE, IF, IFS, VLOOKUP		
	26	いろいろな関数2	COUNTA, MIN, MAX, SUMIF		
	27	いろいろな関数3	ROUNDDOWN, ROUNDUP, SUBTOTAL, COUNTIF		
	28	いろいろな関数4	CONCATENATE, MODE.MULT, LARGE, SMALL		
	29	VBAプログラム入門1	開発タブの表示、マクロ概論		
	30	VBAプログラム入門2	マクロの記録		
31	VBAプログラム入門3	Visual Basicを使ったプログラム起動、起動ボタンの設置			
32	期末試験	期末試験			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスコミュニケーション	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	ビジネスマナーを含めた対応、会話がスムーズに成立することを目指す。加えて、丸覚えのフレーズだけではなく、学んだボキャブラリーを使い分けて、柔軟なコミュニケーションが取れるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ビジネスための日本語 初中級		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	紹介	自己紹介
	2	紹介	他人紹介
	3	紹介	ロールプレイ
	4	あいさつ	入社、退社のあいさつ
	5	あいさつ	新職場、訪問先の受付、社外の人へのあいさつ
	6	あいさつ	ロールプレイ
	7	許可	意向を尋ねて、休暇、早退などの許可
	8	許可	許可されない場合の対応
	9	許可	ロールプレイ
	10	依頼	様々な場面での依頼表現
	11	依頼	ロールプレイ
	12	依頼	オリジナルスキットによるロールプレイ
	13	誘い	様々な場面での誘う表現
	14	誘い	ロールプレイ
	15	誘い	オリジナルスキットによるロールプレイ
	16	まとめ	オリジナルスキットによるロールプレイ
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスコミュニケーション	指導担当者名	鶴巻裕之
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	前期の学び、習得した内容を踏まえて、より実践的な授業内容とし、ビジネスコミュニケーションの能力を高める。就職後に弊害なく日本社会で活躍出来るスキルを身につける		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ビジネスのための日本語 初中級		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	電話	電話対応全般
	18	電話	ロールプレイ
	19	電話	オリジナルスキットロールプレイ
	20	アポイント	日時などの設定と変更、確認など
	21	アポイント	ロールプレイ
	22	アポイント	オリジナルスキットロールプレイ
	23	提案・申し出	上司、会議などでの提案や申し出。断り方。断られた場合の対応
	24	提案・申し出	ロールプレイ
	25	提案・申し出	オリジナルスキットロールプレイ
	26	まとめ	オリジナルスキット実践ロールプレイ、フリーロールプレイ
	27	まとめ	オリジナルスキット実践ロールプレイ、フリーロールプレイ
	28	まとめ	オリジナルスキット実践ロールプレイ、フリーロールプレイ
	29	まとめ	オリジナルスキット実践ロールプレイ、フリーロールプレイ
	30	まとめ	総復習
	31	まとめ	総復習
32	まとめ	総復習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスライティング演習	指導担当者名	石山 蓮
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	専門学校2年間の学びの集大成として、各自学科の授業内容からテーマを見つけて研究発表をする		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	指導担当者作成のプリント		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	テーマの選定	各自研究のテーマについて決定する
	18	研究の進め方	選択したテーマに沿って研究方法等を検討し、研究目的、研究方法を各自プレゼンテーションする
	19	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める(関係資料等の教員指導などを含む)
	20	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める(関係資料等の教員指導などを含む)
	21	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める(関係資料等の教員指導などを含む)
	22	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める(関係資料等の教員指導などを含む)
	23	中間検討 I	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、論議する
	24	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	25	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	26	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	27	各自研究 II	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	28	中間検討 II	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で検討しあう
	29	中間検討 II	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で検討しあう
	30	卒業研究の取りまとめ	卒業研究作成指導、プレゼンテーション指導、報告要旨集作成など
	31	報告会	研究成果の発表
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション	指導担当者名	石山 蓮
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生に配慮した「やさしい日本語」と、聞き手の心をつかむ「話し方(デリバリー)」の技術を身につける ・子どもが直感的に理解できるスライド構成やビジュアルデザインの考え方を学び、実際の資料作成に活用する ・自国の魅力を伝える体験型プログラムを自分たちで作り上げ、喜多方の子供たちとの交流を成功させる”□ □ □ 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	講師作成のプリントや資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	話し方:オリエンテーション	プレゼンテーションの概要
	2	話し方:ターゲット分析	小学4～6年生の興味関心と語彙力の把握
	3	話し方:やさしい日本語	専門用語や難しい表現を、子供が日常で使う言葉に変換
	4	話し方:ストーリー構成	子供の興味を惹きつける「問いかけ」と「結論」の順序
	5	話し方:声と表情の演出	遠くの子供まで届く発声、安心感を与える表情と動作
	6	話し方:巻き込み技術	クイズや挙手、拍手など、子供を参加させるテクニック
	7	話し方:実践練習①	子どもたちを想定に話す練習
	8	話し方:実践練習②	7ターム目の内容をブラッシュアップし、再度練習
	9	デザイン:子供の視覚特性	伝わったポイントと改善点の共有
	10	デザイン:ビジュアル比較	どこに目がいくか、色の心理効果と、要素の整理
	11	デザイン:3秒の壁	ロゴ・イラスト・マークの使い分け
	12	デザイン:比較と強調	ぱっと見て理解できるレイアウトや、文字を減らす引き算の思考
	13	デザイン:写真の選び方	「大きい・小さい」「多い・少ない」を視覚的に伝える図解
	14	デザイン:インタラクティブ設計	子供の心に残る「本物」の情報の見せ方
	15	デザイン:実践練習	子どもたちを想定にスライドを作成し、発表
	16		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション	指導担当者名	石山 蓮
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生に配慮した「やさしい日本語」と、聞き手の心をつかむ「話し方(デリバリー)」の技術を身につける ・子どもが直感的に理解できるスライド構成やビジュアルデザインの考え方を学び、実際の資料作成に活用する ・自国の魅力を伝える体験型プログラムを自分たちで作成し、喜多方の子供たちとの交流を成功させる 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	講師作成のプリントや資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	発表準備①	テーマ決定、アイデア整理
	18	発表準備①	テーマ決定、アイデア整理
	19	発表準備②	資料・企画品作成
	20	発表準備②	資料・企画品作成
	21	発表準備②	資料・企画品作成
	22	発表準備②	資料・企画品作成
	23	発表準備②	資料・企画品作成
	24	中間発表	クラス全体で見直し、良い点・改善点を見つけ出し、ブラッシュアップ
	25	発表準備③	資料・企画品作成
	26	発表準備③	資料・企画品作成
	27	発表準備③	資料・企画品作成
	28	発表準備③	資料・企画品作成
	29	発表準備③	資料・企画品作成
	30	発表会①	子どもたちに向けてプレゼン・イベント実施
	31	発表会②	子どもたちに向けてプレゼン・イベント実施
32			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスライティング	指導担当者名	石井陽寿
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: ○	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスシーンで使用する様々な文書について学び、作成できるようになる。 ・Googleのサービスを活用し、PCのみならずスマートフォンを用いて文書作成ができる。 ・日本で就職活動をする際に、適切な文書・メールが作成できるようになる。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生のためのかんたんWord入門 ・留学生のためのかんたんExcel入門 		
授業外学習の方法	授業内容の復習。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	練習問題1	実技問題1
	2	Googleドキュメント使用・資料作成	使用演習
	3	Googleドキュメント使用・資料作成	使用演習
	4	Googleドキュメント使用・資料作成	使用演習
	5	練習問題2	使用演習
	6	Googleスプレッドシート使用・資料作成	使用演習
	7	Googleスプレッドシート使用・資料作成	使用演習
	8	Googleスプレッドシート使用・資料作成	使用演習
	9	練習問題3	使用演習
	10	Googleスライド使用・資料作成	使用演習
	11	Googleスライド使用・資料作成	使用演習
	12	Googleスライド使用・資料作成	使用演習
	13	模擬試験1	模擬試験の実施、解説
	14	期末試験準備	
	15	期末試験解説	講義、演習
	16	授業内容の復習。	講義
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスライティング		指導担当者名	石井陽寿	
実務経験	-			実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年		国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年	
授業方法	講義: ○	演習: ○	実習: -	実験: -	
単位数	4 単位	総時間	120 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスシーンで使用する様々な文書について学び、作成できるようになる。 ・Googleのサービスを活用し、PCのみならずスマートフォンを用いて文書作成ができる。 ・これまでに学習したWord、Excelの基本操作を復習しながら、より実践的な資料作成ができるようになる。 ・Googleフォーム及びMicrosoftFormsを使用してアンケートを作成・実施し、その結果をエクセルを使って集計・分析し、レポートにまとめる。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生のためのかんたんWord入門 ・留学生のためのかんたんExcel入門 				
授業外学習の方法	授業内容の復習。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	基本操作復習1	1年次、2年次既習項目を復習、演習		
	18	アンケート作成②	Googleフォームの使い方		
	19	アンケート作成③	Microsoft Formsの使い方		
	20	アンケート作成④	アンケートを作成する、回答依頼		
	21	アンケート作成⑤	アンケートを作成する、回答依頼		
	22	レポート作成①	アンケートを集計する		
	23	レポート作成②	レポート作成(表の作成)		
	24	レポート作成③	レポート作成(グラフの作成)		
	25	いろいろな関数1	レポート作成		
	26	発表資料作成①	プレゼンテーションを使って発表資料を作成する		
	27	発表資料作成②	プレゼンテーションを使って発表資料を作成する		
	28	発表資料作成③	プレゼンテーションを使って発表資料を作成する		
	29	VBAプログラム入門1	発表の原稿作成等、準備を進める		
	30	発表準備	フィードバック用のアンケートを作成する		
31	発表	他クラスの学生・教員に向けて、発表しフィードバックをもらう			
32	振り返り	フィードバックアンケートを集計する			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	マーケティング	指導担当者名	石山 蓮
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基本概念(ターゲティング、4P、KGI・KPI等)を理解し、自ら説明できるようになる。 ・仮想の製品・サービスに対して、マーケティング戦略を構築・発表できる力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	1冊目に読みたい デジタルマーケティングの教科書		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	講義: 基礎知識	マーケティングとは
	2	講義: 基礎知識	デジタルマーケティングとは
	3	講義: 基礎知識	デジタルマーケティングのゴール
	4	講義: 基礎知識	デジタルマーケティングの「PDCA」
	5	演習: 基礎知識	各グループで特定のテーマに基づいた目標を設定
	6	演習: 基礎知識	各グループで特定のテーマに基づいたPDCA考案
	7	講義: マーケティング設計	KGIからKPIの考案
	8	講義: マーケティング設計	ブランディングを行う目的
	9	講義: マーケティング設計	ターゲットユーザーを設定
	10	講義: マーケティング設計	ペルソナの作成
	11	講義: マーケティング設計	カスタマージャーニーの考案
	12	演習: マーケティング設計	各グループで特定のテーマに基づいたKGI/KPI設定
	13	演習: マーケティング設計	各グループで特定のテーマに基づいたブランディング設計
	14	演習: マーケティング設計	各グループで特定のテーマに基づいたターゲット設定
	15	演習: マーケティング設計	各グループで特定のテーマに基づいたペルソナ・カスタマージャーニー設定
	16		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	マーケティング	指導担当者名	石山 蓮
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	国際ビジネスマネジメント科 ビジネスコース 2年
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基本概念(ターゲティング、4P、KGI・KPI等)を理解し、自ら説明できるようになる。 ・仮想の製品・サービスに対して、マーケティング戦略を構築・発表できる力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	講師作成のプリントや資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	演習Ⅰ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、“各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(企画考案)”□
	18	演習Ⅰ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、“各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(企画考案)”□
	19	演習Ⅰ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、“各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(企画考案)”□
	20	演習Ⅰ: 仮想企業での実践的マーケティング	演習Ⅰの計画報告会
	21	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(予算考案)
	22	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(予算考案)
	23	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(予算考案)
	24	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(予算考案)
	25	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	演習Ⅱの計画報告会
	26	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(予算考案)
	27	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(予算考案)
	28	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	演習Ⅲの中間報告会、ブラッシュアップ
	29	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(市場調査)
	30	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(市場調査)
31	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	演習Ⅲの計画報告会	
32			
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			